特別支援教育課便り

教職員・幼児児童生徒・保護者を応援します！

サポート

N o. 173
令和２年１２月２２日発行
秋田県教育庁特別支援教育課　指導班

特別支援学校文化祭「わくわく美術展」「みんなの写真展」

１１月１３日（金）～１６日（月）に秋田市にぎわい交流館ＡＵを会場に「第１８回わくわく美術展」「令和２年度みんなの写真展」が開催されました。「わくわく美術展」絵画コンクール部門には９４０点の作品が集まり、その中から１０４点の作品が様々な賞を受賞しました。開催期間中は、多くの方々に絵から湧き出るエネルギーを感じとっていただくことができました。また、「みんなの写真展」では３０９点の応募作品から受賞した３６点が展示され、学校生活を子どもたちならではの視点で切り取った作品が訪れた方々を楽しませてくれました。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「スマイル・ステージ２０２０」や「わくわく美術展」自由作品部門の作品募集、ワークショップが中止となり、児童生徒の発表の場が少なくなりましたが、子どもたちは日々の活動の中で、その自由な発想を作品やダンス、演劇などの身体表現を通して表現し続けています。今年もその一端を多くの方がご覧くださり、子どもたちの感性に触れていただき、ありがとうございました。

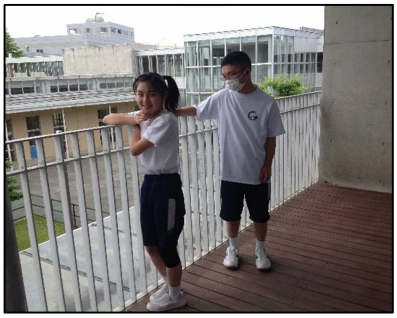
（秋田県特別支援学校文化連盟　事務局　聴覚支援学校　教諭　小棚木明子）

【わくわく美術展　絵画コンクール部門　最優秀賞】

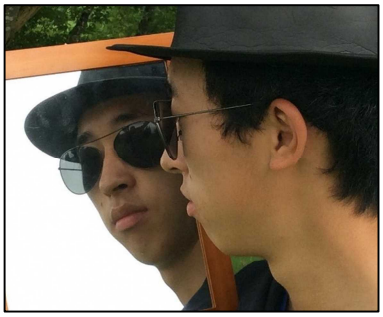
ゆり支援学校　高等部１年　伊藤　結依
「太陽と果物」

栗田支援学校　高等部２年　佐藤　響
「先生の手と足」

【みんなの写真展　最優秀賞】



天王みどり学園　高等部１年　瀬川　杜活
「交差点にいる厨二病」



比内支援学校　高等部３年　阿部　琢真
「鏡の中の自分」

インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システム（※）の推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介していきます。

※インクルーシブ教育システム
人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするという目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み

～交流及び共同学習の充実に向けて～

視覚支援学校

視覚支援学校小学部１年生の児童１名は、由利本荘市立岩谷小学校との居住地校交流を行っています。集団学習の雰囲気を体感し、友達や自分のよさを発見しながら活動に参加することをねらいとしており、本児童は保育所で一緒に過ごした友達に会えることを楽しみにしていました。

１回目（８月）の交流では、自分の名前が付いた靴だな、机、ロッカーを見付けた瞬間、とても喜んでいました。学級活動では、友達と輪になってダンスを踊ったり、フルーツバスケットをしたりして仲良くなりました。事前にルールや遊び方を確認し経験していた上、本児童の大好きな曲を選んだり、友達と声を掛け合ってメダルを交換したりしたことで、緊張することなく、ゲームの流れにのって友達と一緒に席を移動することができました。国語では、片仮名の導入の学習をしました。事前に岩谷小学校から授業で使用するワークを借りて、文字の大きさや線の太さなど本児童の見え方に応じたプリントを準備したことで、側に友達がいても自信をもって文字を書いていました。また、友達の前で自分から手を挙げて発表できたことで、認められたと感じたようであり、うれしそうでした。休み時間には、クラスの友達が本児童の書見台（姿勢よく読み書きするための道具）に関心をもち、見たり、触ったりしていました。「どうやって使うの？」と質問をされ、本児童は「立てて使うんだよ。」と台を立てたり、教科書を置いたりして使い方を紹介しました。交流後には、楽しかったことを振り返り、手紙を交換しました。友達とのつながりを実感できたようです。

２回目（１２月）の交流では、国語・音楽・体育の授業に参加し、グループの友達と協力して発表したり、鍵盤ハーモニカを練習したりするなど、１回目より自分から関わろうとする姿が見られました。

本児童は、２年生になってからも、一緒に学習したり手紙を交換したりすることを楽しみにしています。

（視覚支援学校　教諭　髙橋　美穂）

【学級活動】
フルーツバスケットでのメダル交換

【国語】
片仮名の言葉「ランドセル」の発表

【休み時間】
友達とのお絵かき

通常の学級における特別な支援を必要とする子どもの学びを支えるために
～特別支援教育支援員配置校研修から～

ゆり支援学校　特別支援教育アドバイザー　石川　純子

小・中学校等には、通常の学級で特別な支援を必要とする児童生徒のために、特別支援教育支援員が配置されています。今年度は、特別支援教育支援員配置校研修で２１校を訪問し、指導や支援の在り方について、管理職や学級担任、支援員と協議を行ってきました。

研修では、①児童生徒のよき理解者として信頼関係を築きながら支援をすること、②学級担任と情報を共有すること、③支援員は黒子的な役割であり、児童生徒が自分の力でできるようにヒントを与えて見守る支援を中心に行うこと、をいつも話しています。

学校によっては、支援員の悩みを受け止め、管理職も一緒に話し合う会議が定期的に開催されています。今困っていること、効果のあった支援などを確認し合い、明日からの方向性を共有する会です。教職員が支援の方向性を共通理解し実践したことで、授業中等、学級内で大声を出していた児童が、少しずつ落ち着いて受け答えできるようになりました。支援員の気付きや発見が、指導や支援の手掛かりになることも多いため、チームとして情報を共有しながら、より良い指導や支援を目指していくことが大切であると感じています。

校内支援体制を整え、組織として対応していくために、お手伝いしていきたいと思います。

おめでとうございます

令和２年秋の叙勲

この度、本県特別支援教育の充実と発展に尽力され、その御功績により、松渕　利夫　先生（元秋田養護学校校長）が、瑞宝小綬章を受章されました。

本来であれば、皇居にて天皇陛下より伝達及び拝謁が行われるところでありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となってしまいました。

松渕　利夫　先生、この度は本当におめでとうございました。

令和２年度文部科学大臣教育者表彰

文部科学省では学校教育に関し、特に顕著な功績のあった方を表彰しています。この度、秋田きらり支援学校の新目　基　校長が、令和２年度文部科学大臣教育者表彰を受賞されました。

新目　基　校長先生、この度は本当におめでとうございました。